

## スポーツ国際開発学共同専攻のカリキュラムポリシー

学位に相応しい専門的能力を身につけるため、以下の専門科目を実施している。また、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、関連科目を設置している

### ●教育課程の編成方針

#### ■講義科目（14 単位以上履修）

- ・基礎科目（スポーツ国際開発論Ⅰ、オリンピックムーブメント論、スポーツマネジメント論、スポーツ・文化・社会、ヘルスプロモーション論、上級コーチ教育論、研究方法論など）において、獲得すべき能力の基盤となる知識を身につける。
- ・応用科目（スポーツ国際開発論Ⅱ、経営マネジメント論、プロジェクトマネジメント論など）において、グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力、スポーツ・体育・健康に関する実践力、そして国際貢献のためのコミュニケーション能力とマネジメント能力を身につける。
- ・関連科目（開発学原論、社会開発のための公共政策、国際政治学、アジアにおける開発経済学など）において、国際情勢と政策及び地球規模課題に対する知識と分析力を身につける。

#### ■演習科目（10～12 単位履修）

- ・学内科目（課題演習）では、スポーツを通じた開発と平和、スポーツを通じた教育・青少年育成、スポーツとジェンダー・人種・民族、健康と環境、アダプテッドスポーツ・高齢者の5領域を各自の研究テーマに合わせて選択し、獲得すべき能力についての専門的な知識とともに、グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力を身につける。
- ・学外科目（JSC セミナー、JSC プロジェクト、国外大学セミナー、国際カンファレンス・セミナーなど）では、グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力を身につける。

#### ■実践科目（6～8 単位履修）

- ・国内 OJP（4 週間）と国外 OJP（16 週間）により、獲得すべき能力の実践現場での知識と実践力を身につける。

#### ■キャリアパス形成

本専攻は、筑波大学・鹿屋体育大学の両大学の特徴を活かし、かつ JSC との協働によって、講義・演習・実践とが橋渡しされ、キャリアパス形成に直結するような教育課程編成と実施がなされている。JSC が展開している事業に学生が参加する「JSC セミナー」「JSC プロジェクト」のほか、国内 OJP（4 週間）を実践する機関のひとつに JSC が位置づいており、国外 OJP（16 週間）実施の際にも JSC の情報やネットワークを活用している。国外 OJP は、学生

のキャリアパス形成にとって重要であり、協定締結機関である国際協力機構（JICA）の長期ボランティア制度を利用できるほか、国外の NGO、IF、NF、大学等と連携を取って実施している。

#### ●学修の方法・プロセス

- ・指導体制は主指導教員 1 名、副指導教員 2 名（副指導教員のうち 1 名は本籍大学以外の教員）
- ・1 年次において、各自の志望領域の課題演習を履修する。
- ・1 年次後半から 2 年次にかけて、国外 On the Job Practice（4 週間）を実践。
- ・2 年次において、課題研究を履修する。
- ・2 年次において、中間発表会（10 月）、論文（または特定課題レポート）テーマ提出（11 月）、論文（または特定課題レポート）提出（1 月）、最終試験（1 月）を実施する。

#### ●学修成果の評価

達成度評価については、入学時から課程修了まで、学生の履修状況、教授方法、指導体制などの項目で総合的に行っている。

- ・講義科目：筆記試験及び口頭試問によって、専門的知識とともにプラクティショナーとしての基礎力を評価する。
- ・演習科目：課題演習における専門的知識については、筆記試験や口頭試問によって評価する。学外での実践科目におけるグローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力については、両大学教員と JSC 担当者及び協定を締結した現場指導者との協議の上で、学修状況と面接によって評価する。
- ・実践科目：国内・国外 OJP における総合的な能力の評価については、両大学教員と JSC 担当者及び協定締結機関の現場指導者との協議の上で、学修状況と面接によって評価する。
- ・キャリアパス形成：演習科目（学外）や実践科目の経験をもとに、グローバルな俯瞰力と実践現場で発揮できるリーダーシップ能力、スポーツ・体育・健康に関する実践力、国際貢献のためのコミュニケーション能力とマネジメント能力について、両大学教員と JSC 担当者及び協定締結機関の現場指導者との協議の上で、学修状況と面接によって評価する。